

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月5日

【評価実施概要】

事業所番号	3610410502
法人名	医療法人 鴻伸会
事業所名	グループホーム合歓の木
所在地	徳島県阿南市新野町西馬場3-3 (電話) 0884-36-2024

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年11月5日

【情報提供票より】(H20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13年 10月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	19 人 常勤:16人,非常勤:3人,常勤換算:2階 8.4人、3階7.1人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	4階建ての	2階 ~	3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	共益費10,000円、その他実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2	-名		
年齢	平均 86.1歳	最低	67歳	最高	102歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 鴻伸会 富士医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は山や田畑に囲まれた自然豊かな地にある。外出支援は神社やお寺への散歩を主に取り入れ、車椅子の方に対しても積極的に行われている。職員は食事の調理や準備だけでなく、役割や趣味、楽しみごとを通して利用者とゆったりと触れ合うことを重視した支援を行っている。また管理者及び職員は「学ぶ」ことに意欲的であり、研修への参加及び事例発表を行っている。さらに現場のケアの実際を職員同士で多角的にチェックし合い、サービスの質の向上に活かしている。運営推進会議の内容も充実し、利用者や家族、地域の方との交流の場となっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な課題であった「同業者との交流を通じた向上」「入浴を楽しむことができる支援」は改善されている。特に同業者との交流においては、他のグループホームとの交流や情報交換を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員で取り組み、意義やねらいについても理解されている。また評価を活かし話し合いを行い、より良い支援が提供できるよう取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、公民館職員、学校評議員(学校の運営に意見を述べる地域住民)、地域包括支援センター職員などが参加している。会議内容は利用者の入退居や生活状況、外部評価結果を報告し、出された要望やサービスの改善に向けた取り組みについての協議が行われている。会議での内容は職員同士で話し合いを行い、日頃の支援に反映している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見箱を設置して意見などの把握に努めている。出された要望などは管理者や主任が中心となって話し合い、サービスの改善に繋げている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>保育所や幼稚園、小学校からの来訪、祭りの御神輿が寄ってくるなど地元の人たちとの交流が行われている。また事業所は小学校からの招待により運動会予行演習の見学、近隣のお寺でお遍路さんやお参りの人に接待するなどして地域活動に参加している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	同法人理念として「この地域における全ての方々が安心して暮らせるよう最善を尽くす」とあり、「尊厳・納得・連携」といったグループホームのスローガンを毎年つくられている。しかし地域密着型サービスとしての事業所独自の理念の作成には至っていない。	○	地域密着型としてグループホーム独自の理念が作りあげられることを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人理念をもとにホーム独自に意味を吟味し、日々のサービスを提供している。理念を具体化しイメージして支援されている。しかし地域密着型サービスとしての事業所独自の理念の作成には至っていない。	○	グループホーム独自の理念のもと、日々のケアに取り組まれることが望まれる。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	保育所や幼稚園、小学校からの来訪、祭りの御神輿が寄ってくれるなど地元の人たちとの交流が行われている。また事業所は小学校からの招待により運動会予行演習の見学や、近隣のお寺でお遍路さんやお参りの人に接待するなどして地域活動に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義やねらいを理解し、自己評価は全職員で取り組んでいる。また前回評価での課題についても全職員で話し合い、具体的な取り組みやサービスの改善が見られる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回開催し、利用者や家族、民生委員、公民館職員、学校評議員(学校の運営に意見を述べる地域住民)、地域包括支援センター職員などが参加している。会議内容は利用者の入退居や生活状況、外部評価結果を報告し、出された要望やサービスの改善に向けた取り組みについての協議が行われている。会議での内容は職員同士で話し合いを行い、日頃の支援に反映している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター主催の勉強会に参加し、情報・意見交換するなどして連携を図っている。また市が主催する会議に参加して情報交換したり、事業所での取り組みを伝えたりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	今年度から毎月、ホーム便り「ねむの木便り」を作成し、家族へ手渡している。写真を多く掲載することにより生活の状況が分かりやすいものとなっている。緊急時以外にも健康状態については随時、電話連絡している。お金は全く預かっていないため金銭出納帳はないが、何かを購入する際には立替え、領収書を毎月の請求書とともに明示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して意見などの把握に努めている。出された要望などは管理者や主任が中心となって話し合いサービスの改善に繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での職員の異動はほとんどない。職員から異動の希望があった場合や、やむを得ない離職の際には十分な引き継ぎ期間を設けるなど利用者への影響が出ないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は積極的に外部研修などに参加している。研修内容を発表する場を設けたり報告書を回覧したりするなど、全職員で内容を共有している。また各自の年間目標を立てたり、現場のケアの実際を職員同士で多角的にチェックし合うなどしている。それに対して管理者や主任は評価・助言などを行い、能力に応じた教育に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会が主催する研修会などに参加している。また他のグループホームと交流して情報交換を行ったり、職員同士の交流を具体的に検討したりしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、まず職員が自宅を訪問して次に利用者や家族にホームの見学に来てもらっている。その際には他の利用者と交流できるよう配慮し、徐々に場の雰囲気に馴染めるよう工夫している。また入居間もない期間には、できるだけ来訪してもらえよう家族に依頼するなど、利用者が安心できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者に昔からの行事や歌、料理の仕方などを教わったり、園芸や和歌と一緒に楽しんだりするなど、共に支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日頃から利用者寄り添い、コミュニケーションを密にとりながら意向の把握に努めている。意思表示が困難な利用者についても、表情や言動などからのサインを見逃さないよう留意し、意向の把握に努めて本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスで担当職員が中心となってアイデアや気づきを出し合い、具体的な内容の介護計画書を作っている。また本人及び家族からの要望を聞きできる限り反映されるよう取り組んでいる。計画書には家族の確認印・サインがある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しが行われている。また利用者の状態に変化があった際には家族などの関係者間で話し合い、そのつど見直しが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、通院支援など柔軟な対応がなされている。本人や家族の状況に応じ、個々の満足が得られるよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援し、耳鼻科や眼科など適切な医療を受けられるよう配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	状況の変化を期に家族と重度化した場合や終末期に向けた話し合いが行われている。また看取りの指針と同意書があり、方針や具体的対応について話し合いが行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを傷つけるような声かけや対応はなく、利用者の尊厳が守られるよう日頃から話し合われている。またホーム便りの写真掲載の際にはそのつど利用者や家族に同意を得るなど、個人情報の保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながらも、規則正しい生活ができるように心がけて支援している。また無理強いせず、その日にしたいことに参加できるよう個別的に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は同じものを食べ、同じテーブルで和やかに食事を楽しんでいる。利用者が自発的に片付けや洗い物を手伝う姿が見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望やケア上で必要と判断される場合には随時、部分浴や入浴の支援がなされており、柔軟な対応に努めている。車椅子生活の方には、機械シャワー浴を使用し、安全で安心して入浴していただけるように配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族や知人、友人が来訪した際に利用者の昔の趣味や仕事の様子などを聞き、ホームでの生活に活かされるよう心がけている。また屋上に出て花火見物やお月見を楽しんだり、外の空気に触れたりして気分転換を図れるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や体調に合わせて、神社やお寺への散歩を日常的に楽しんでいる。車椅子の方も一緒に積極的に出かけている。また近所の商店や郵便局にも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関の鍵は施錠していない。利用者の所在をチェックし、その日の様子や気分を察知できるよう留意している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回は消火器の使い方や通報システム・災害時の連絡網の確認などの実践的な訓練を行っている。避難訓練も年1回は実施し、避難用持ち出し袋を準備し災害に備えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎回チェックして記録し、同法人内の管理栄養士からアドバイスを受けている。食事の形態も一人ひとりに合ったものとなるよう対応されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースの壁面には手作りのカレンダーが掛けられている。思い出の写真や和歌の作品も飾られ落ち着いた空間となっている。また野や庭の花をさりげなく飾ることで、季節感を感じられるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族写真や位牌、使い慣れた電化製品などが自由に持ち込まれ、安心して過ごせるよう工夫されている。		